2025 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/デザイン科学域/造形科学域 : /Academic Field of Design/Academic Field of Architecture and Design	年次/Year	/ 2 年次 / 2 年次 : /2nd Year/2nd Year
課程等/Program	/デザイン・建築学課程・課程専門科目/デザイン・建築学課程・課程専門科目 : /Specialized Subjects for Undergraduate Program of Design and Architecture/Specialized Subjects for Undergraduate Program of Design and Architecture	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	// : //	曜日時限/Day & Period	/水 4 : /Wed.4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	13123401			
科目番号 /Course Number	13161023			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class	da			
授業科目名 /Course Title	日本建築史 : History of Japanese Architecture			
担当教員名 / Instructor(s)	/清水 重敦/登谷 伸宏 : SHIMIZU Shigeatsu/TOYA Nobuhiro			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code	B_DA2220			

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	日本建築の変遷を、主として各時代の様式および技術を中心に説明し、外来建築を吸収しつつ、常に独自の表現を創造してきた日本建築の底流を解明する。それとともに、その背景となる各時代の社会や文化のあり方についても考えていきたい。
英	The lecture will explain the evolution of Japanese architecture, focusing mainly on the styles and techniques of each period, and will elucidate the underlying currents of Japanese architecture, which has always created its own unique expression while absorbing foreign architecture. At the same time, the lecture will explain the society and culture of each period that influenced the architectural style and form.

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	日本建築の様式の変遷を理解する。 日本建築の技術的特質を理解する。 日本建築の特殊性と普遍性を理解する。 建築とそれを取りまく各時代の社会との関係を理解する。 図面、絵図、史料などから建築的特徴を読解する能力を身につける。

英	To understand the evolution of Japanese architectural styles. To understand the technical characteristics of Japanese architecture. To understand the particularities and universality of Japanese architecture. To understand the relationship between architecture and the societies of each period that surround it. To be able to explain the use of architecture and the social context in which it was built from literary and pictorial historical sources.
---	--

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)

日	
英	

授業計画項目 Course Plan

No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	概論	日本建築史の通史及び用語についての概説をするとともに、日本建築のかたちの変化を技術的变化を通して論じる。
	英		
2	日	先史住居	縄文、弥生、古墳時代における竪穴住居、高床建物について、技術的特質に注目して論じる。
	英		
3	日	神社建築の発生	神社建築の発生について考察し、その形式の特異性と古形式が残る理由について論じる。
	英		
4	日	飛鳥・奈良時代の寺院建築	法隆寺を中心に飛鳥時代における寺院建築の導入を論じるとともに、奈良時代における寺院建築の定着と展開の過程を考える。
	英		
5	日	平安時代の寺院建築	平安時代における密教の導入にともなう寺院建築の新たな類型の生成、浄土信仰の隆盛にともなう阿弥陀堂の建築の展開を論じる。
	英		
6	日	古代の宮殿と寝殿造	古代都城における宮殿建築について論じるとともに、奈良時代から平安時代にかけての都城における住居建築、特に平安時代における寝殿造の特徴を論じる。
	英		
7	日	大工道具の変遷と古代から中世への変化	先史時代、古代、中世を通じた大工道具の変遷を論じ、建築技術や形式との対応関係について述べるとともに、古代から中世への主に寺院建築における技術の変遷過程を論じる。
	英		
8	日	中世における寺院造営と新技術の導入	古代から中世における寺院建築の造営技術の変化、および中世に移入された大仏様・禅宗様の工法が寺院建築に与えた影響について論じる。
	英		
9	日	中世仏堂の空間と機能	新和様・折衷様の仏堂が成立する過程を明らかにするとともに、中世仏堂の空間的な特徴、および堂内の空間が持った機能を論じる。
	英		
10	日	織豊系城郭から近世城郭へ	織豊系城郭が成立する過程、および天守をはじめ同時期に新たに成立した城郭建築の建築的特徴を説明する。さらに城郭造営を担った造営組織についても論じる。
	英		
11	日	秀吉政権による寺社造営とその技術	豊臣秀吉が進めた寺院の造営・再興において、どのような技術が用いられたのかを明らかにするとともに、秀吉政権が寺社造営を担う造営組織をいかに編成したのかを論じる。
	英		
12	日	近世書院造の成立	中世から近世にかけて書院造が成立する過程を明らかにするとともに、各時代における書院造の空間的な特徴について説明する。
	英		
13	日	近世寺院本堂の成立と展開	近世において、新たな寺院本堂の形式が成立する過程を明らかにする。また、幕府の法令や寺社参詣の興隆により寺院建築が変容する様相について論じる。

	英		
14	日	近世民家の類型と地方的特色	近世民家の類型とその地方的な特色を説明するとともに、民家と生活の関係について論じる。
	英		
15	日	まとめ	総括
	英		

履修条件 Prerequisite(s)			
日	日本史に関する基本的な知識が必要である。		
英	Basic knowledge of Japanese history is required.		

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review			
日	日本各地に現存する歴史的建造物や伝統的町並みを積極的に見学すること。 Moodle や各回のレジュメに掲載された参考文献を、授業前後に読んでおくこと。		
英			

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books			
日	教科書：日本建築学会編『日本建築史図集 新訂第三版』（彰国社、2011年） 参考書：後藤 治『日本建築史』建築学の基礎6（共立出版、2003年）、太田博太郎監修『日本建築様式史』増補新装（美術出版、2010年） Moodle 掲載のレジュメ		
英			

成績評価の方法及び基準 Grading Policy			
日	学期末に課すレポートによって評価する。なお、授業内での出欠確認において、5回以上出席していた場合のみレポートの提出を認める。		
英			

留意事項等 Point to consider			
日	レポートは自分自身の意見を記述するものである。参考文献の要旨をまとめるにとどまっているものはレポートとして認めない。 レポートにおいて文章を引用する際は引用箇所が明確にわかるようにし、出典を必ず記載すること。 他人が作成したレポートを自分が作成したとして提出しないこと。		
英			